

生徒も教師も

下のA～Cの写真は、学級の個人ロッカーを廊下側から撮影したものです。これらを見てどう思いますか。自分の学級のロッカーかどうか気になりますか。どれが何年生の、何組のロッカーか、知りたいですか。三枚並べると、そういうことが気になりますね。しかし、どの学級のロッカーかはあえて言いません。それは「ドングリの背比べ」にしかすぎませんからね。

これらの写真から、私はあることを思いました。私と同じことを思った人は、恐らく生徒の中にも教師の中にもいないのではないのでしょうか。歴史が浅い北中ですが、開校当時のことを知っている者の中に、「そういうえばそうだった」と思い当たる人がわずかにいるかもしれません。

新築の校舎で北中がスタートした時、「校舎が日本一なら、学校も日本一に」を意識して、生徒や教師の主体的な姿がたくさん見られました。掃除の時間でもないので、自分の担当でもないのに生徒玄関の砂をほうきで掃く姿。下校の準備をして、進んで黒板やその前の床を掃いたり、ロッカーの中や机列を整えたりする姿。そんな中に、登校後のカバンの片づけ方にこだわる姿もありました。写真のような肩掛けひもが飛び出した状態や、カバーがめくれあがったりした状態が続いたことはまずありませんでした。

ここにもコロナの影響があることは否(いな)めません。なぜなら朝も帰りも感染対策で主体的な動きが生み出せる時間がずいぶん少なくなっただからです。とりわけ、帰りの会終了後は、分散登校で主体的な動きが物理的に取りづらくなりました。したがって、開校当時に見られた姿が少なくなっただけは、ある程度仕方がないことだと私は思っています。

しかし、その意識だけは大切にしておいてほしい、生徒はもちろん職員にも、「北中の誇るべきは環境だ」という意識をもち続けてほしいのです。個人ロッカーの整理整頓は、コロナの影響が及ばないところで、ロッカーからカバンがはみ出すのは、新型コロナウイルスの影響が生み出した結果ではなく、生徒と教師の意識の低下が生み出した結果ではないのでしょうか。

あなたの学級のロッカーの様子を、教師も含めて何人が毎日目にしていてでしょうか。それにもかかわらず、ロッカーの様子が乱れたままで放置されているのは、意識の低下にほかなりません。無人の教室の整理整頓、脱いだ後のジャージの管理などにも、最近の問題があると感じています。

今日は生徒だけでなく、職員に向けても書いたつもりです。生徒と教師、どちらが先に動くかな。

(十月十三日 記)

